



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月9日

上場会社名 オイシックス・ラ・大地株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3182 URL https://www.oisixradaichi.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高島 宏平
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画本部 (氏名) 松本 浩平 (TEL) 03-6867-1149
 本部長 (代表)
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		EBITDA(※1)		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	87,475	0.1	3,293	△33.9	4,960	△22.3	1,942	△41.0
2022年3月期第3四半期	87,400	16.9	4,979	△18.8	6,385	△11.3	3,294	△15.5

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 2,774百万円(△19.7%) 2022年3月期第3四半期 3,454百万円(△8.0%)

(※1) EBITDAは、営業利益+減価償却費+のれん償却費としています。

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	53.15	—
2022年3月期第3四半期	90.15	90.10

(注) 2023年3月期第3四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	64,350	26,779	38.7
2022年3月期	52,634	23,872	42.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 24,931百万円 2022年3月期 22,132百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		EBITDA		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	120,000	5.7	4,500	7.9	6,500	4.6	2,500	△8.3	68.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年3月期3Q	38,028,092株	2022年3月期	38,014,892株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2023年3月期3Q	1,469,950株	2022年3月期	1,469,831株
------------	------------	----------	------------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年3月期3Q	36,555,203株	2022年3月期3Q	36,541,920株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数の拡大と一時的な縮小を繰り返す中で感染防止と経済再開の両立に向け、政府による観光支援策の実施などにより個人消費の持ち直しが見られました。しかしながら、ウクライナ情勢等に起因する物価高や円安進行など、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

一方、国内の食品宅配市場においては、行動制限の緩和が進む環境下においてもリモートワーク定着などのライフスタイルの変化により、オンライン経由の購買行動は定着化しつつあり、お客様の新しい生活スタイルに対応した食品宅配に対する消費者の需要は引き続き継続しております。

このような環境の中、当社グループにおいては、食を支えるインフラ企業として、安定的な出荷キャパシティや商品サプライの確保に取り組むとともに、お客様の家庭での食の在り方が大きく変化する中で、Afterコロナにおけるお客さまの潜在的ニーズをいち早く捉え、満足していただける商品・サービスを提案してまいります。また、経営戦略の柱である「国内宅配事業の成長・収益力強化」に向け、カスタマーエクスペリエンスの進化およびローコストオペレーションの取組みの実行、また国内宅配事業で培ったノウハウを活かし「国内B2Bサブスク事業」や「次世代フード事業」など非連続な成長に向けた事業ポートフォリオの拡張、「サステナブルリテール戦略」に基づいたフードロスの削減や温室効果ガス削減への取組みを強化しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は87,475百万円(前年同期比0.1%増)、営業利益は3,293百万円(前年同期比33.9%減)、EBITDAは4,960百万円(前年同期比22.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,942百万円(前年同期比41.0%減)となりました。

① 宅配事業(O i s i x)

インターネットを通じて主に食品・食材の直販を行う宅配事業を行うO i s i xは、共働きの子育て世代を主要ターゲットとし、プレミアムな時短を実現する商品、サービスを提供しております。会員数については、当第3四半期連結会計期間は、純増を着実に継続しながら春季の会員獲得最大化のための認知拡大施策を実施しており、前連結会計年度末(2022年3月末)の346,083人から、当第3四半期連結会計期間末(2022年12月末)には361,135人へと約15,000人の増加となりました。

セグメント利益は、収益力強化の施策が順調に進捗しているものの、前第4四半期連結会計期間に発生した新物流センターへの移転トラブルからのリカバリー施策による費用が第2四半期連結会計期間まで発生していたことに加え、前連結会計年度末は感染症拡大影響によるARPU上昇がみられていたことにより、前年同期と比べ減少しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	44,946百万円(前年同期比 0.5%減)
セグメント利益	6,390百万円(前年同期比 2.1%減)

② 宅配事業(大地を守る会)

カタログやインターネットを通じて主に食品・食材の直販を行う大地を守る会は、シニアの二人暮らし世帯を主要ターゲットとし、“ちゃんとした食生活”のコンセプトの元、ターゲットニーズに沿った新サービスの開発、磨き上げに注力しております。前年より継続して、シニア層が手軽に健康実感できるサービスである「まるごはん」を活用した新規獲得のチャレンジを行っております。会員数は、前連結会計年度末(2022年3月末)の45,534人から、当第3四半期連結会計期間末(2022年12月末)には43,680人へ減少しております。

また、売上高については、手軽に野菜を摂取できる商品・サービスの開発強化などの施策により、当初計画の想定に対してARPUは堅調に推移しているものの、感染症拡大影響によるARPU上昇や会員数の下支えがみられた前年同期の売上高と比べ減少しております。セグメント利益については、売上高減少に伴い事業活動による利益は減少しましたが、2017年の株式会社大地を守る会買収に関連したのれん償却が前連結会計年度で終了し、償却負担が減少し増加しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	9,464百万円(前年同期比 6.8%減)
セグメント利益	1,924百万円(前年同期比 10.1%増)

③ 宅配事業(らでいっしゅぼーや)

カタログやインターネットを通じて主に食品・食材の直販を行うらでいっしゅぼーやは、料理などの日常生活を通じて社会貢献をしたい世帯を主要ターゲットとし、「ふぞろいRadish」などの商品、サービス開発を進めております。会員数については、「ふぞろいRadish」を活用した新規獲得が好調に進捗し、前連結会計年度末(2022年3月末)の65,093人から、当第3四半期連結会計期間末(2022年12月末)には66,435人へと増加しております。

また、売上高については、当初計画の想定に対してARPUは順調に推移しているものの、感染症拡大影響によるARPU上昇がみられた前年同期と比べ減少しております。セグメント利益については、ローコストオペレーションの徹底や主力商品の商品価格適正化により、感染症拡大影響によるARPU上昇がみられた前年同期と比べても増加しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	12,892百万円(前年同期比 3.3%減)
セグメント利益	1,927百万円(前年同期比 2.4%増)

④ 宅配事業(Purple Carrot)

米国で、ヴィーガンに特化したミールキットの宅配事業を展開するPurple Carrotは、米国における経済活動の再開をうけ、売上高は会員数が前第1四半期会計期間をピークとして段階的に低減していることに伴い減少しております。一方、セグメント利益については、5月からの商品価格適正化の効果もあり、改善傾向がみられるものの、前年同期比では、売上減影響、原材料や人件費のインフレ影響により減少しています。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	7,505百万円(前年同期比 4.9%減)
セグメント損失	494百万円(前年同四半期連結累計期間には471百万円の利益)

⑤ その他事業

当セグメントは、ソリューション事業、店舗事業、海外事業(Purple Carrotを除く)、卸事業等からなるその他事業であります。

前年同期に新型コロナウイルス感染症のマイナス影響を受けた保育園卸・水産品卸(豊洲漁商産直市場)などの卸事業の業績が回復、伸長したことや、引き続き食品宅配需要が底上げされていることで、他社EC支援(ISETAN DOOR、dミールキット)などのソリューション事業の会員数が増加したことにより、全体では売上高は増加しました。一方で、セグメント利益については、収益力が比較的低い事業が売上高伸長を牽引する中で、海外事業などにおいて事業の立ち上げにかかる費用を先行的に投下していることから、セグメント利益は減少いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	13,630百万円(前年同期比 21.8%増)
セグメント利益	1,230百万円(前年同期比 4.4%減)

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して11,716百万円増加し、64,350百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して1,300百万円増加し、29,815百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少3,646百万円、売上債権の増加3,999百万円、商品及び製品の増加350百万円、未収入金の増加584百万円、その他流動資産の減少132百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して10,415百万円増加し、34,534百万円となりました。これは、有形固定資産の増加104百万円、無形固定資産の増加306百万円、投資その他の資産の増加10,004百万円によるものであります。投資その他の資産の増加の主な要因は、シダックス株式会社に係る株式取得による投資有価証券の増加8,527百万円であります。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比較して8,808百万円増加し、37,570百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して9,331百万円増加し、25,246百万円となりました。これは主に、買掛金の増加2,370百万円、未払金の減少106百万円、短期借入金の増加6,010百万円、未払法人税等の増加451百万円、その他流動負債の増加544百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して522百万円減少し、12,324百万円となりました。これは主に、リース債務の減少485百万円によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して2,907百万円増加し、26,779百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益1,942百万円、為替換算調整勘定の増加785百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月12日付「2022年3月期決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想は当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,071	9,424
売掛金	8,964	12,963
商品及び製品	1,950	2,300
仕掛品	83	86
原材料及び貯蔵品	532	668
未収入金	2,927	3,511
その他	1,217	1,084
貸倒引当金	△232	△225
流動資産合計	28,514	29,815
固定資産		
有形固定資産		
リース資産（純額）	12,330	11,823
その他（純額）	4,152	4,763
有形固定資産合計	16,482	16,586
無形固定資産		
のれん	1,261	1,371
その他	2,271	2,468
無形固定資産合計	3,533	3,840
投資その他の資産		
投資有価証券	1,796	11,640
その他	2,306	2,467
投資その他の資産合計	4,103	14,107
固定資産合計	24,119	34,534
資産合計	52,634	64,350
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,188	8,559
短期借入金	1,010	7,020
1年内返済予定の長期借入金	39	32
リース債務	692	705
未払金	5,855	5,748
未払法人税等	226	678
契約負債	250	318
ポイント引当金	151	137
その他	1,501	2,046
流動負債合計	15,914	25,246
固定負債		
長期借入金	101	79
リース債務	11,956	11,470
役員退職慰労引当金	8	9
資産除去債務	561	553
繰延税金負債	29	22
その他	190	189
固定負債合計	12,847	12,324
負債合計	28,762	37,570

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,994	3,995
資本剰余金	8,015	8,016
利益剰余金	14,448	16,419
自己株式	△4,503	△4,503
株主資本合計	21,954	23,928
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16	55
為替換算調整勘定	160	946
その他の包括利益累計額合計	177	1,002
非支配株主持分	1,739	1,848
純資産合計	23,872	26,779
負債純資産合計	52,634	64,350

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	87,400	87,475
売上原価	44,994	45,471
売上総利益	42,405	42,003
販売費及び一般管理費	37,426	38,710
営業利益	4,979	3,293
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	4	4
受取補償金	13	12
補助金収入	24	10
資材リサイクル収入	4	4
償却債権取立益	19	8
持分法による投資利益	48	—
投資事業組合運用益	—	40
その他	24	18
営業外収益合計	139	100
営業外費用		
支払利息	51	91
為替差損	12	5
持分法による投資損失	—	212
その他	5	10
営業外費用合計	69	319
経常利益	5,049	3,073
特別利益		
債務消滅益	123	—
特別利益合計	123	—
特別損失		
投資有価証券評価損	7	—
特別損失合計	7	—
税金等調整前四半期純利益	5,165	3,073
法人税、住民税及び事業税	1,707	1,241
法人税等調整額	206	△117
法人税等合計	1,914	1,123
四半期純利益	3,251	1,949
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△43	7
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,294	1,942

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	3,251	1,949
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△11	31
為替換算調整勘定	222	785
持分法適用会社に対する持分相当額	△7	7
その他の包括利益合計	203	824
四半期包括利益	3,454	2,774
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,497	2,767
非支配株主に係る四半期包括利益	△43	7

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	宅配事業 (Oisix)	宅配事業 (大地を 守る会)	宅配事業 (らでいっし ゅぼーや)	宅配事業 (Purple Carrot)	計			
売上高								
日本	45,190	10,154	13,336	—	68,682	10,279	—	78,961
米国	—	—	—	7,856	7,856	—	—	7,856
その他	—	—	—	—	—	582	—	582
顧客との契約から生じる収益	45,190	10,154	13,336	7,856	76,538	10,861	—	87,400
外部顧客への売上高	45,190	10,154	13,336	7,856	76,538	10,861	—	87,400
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	37	37	333	△370	—
計	45,190	10,154	13,336	7,893	76,575	11,194	△370	87,400
セグメント利益	6,525	1,748	1,883	471	10,628	1,287	△6,936	4,979

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソリューション事業・店舗事業・海外事業(Purple Carrotを除く)・卸事業等を含んでおります。

2. 「調整額」のセグメント利益における主な内容は、固定人件費及び各事業セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	宅配事業 (Oisix)	宅配事業 (大地を 守る会)	宅配事業 (らでいっし ゅぼーや)	宅配事業 (Purple Carrot)	計			
売上高								
日本	44,946	9,464	12,892	—	67,303	12,030	—	79,334
米国	—	—	—	7,475	7,475	—	—	7,475
その他	—	—	—	—	—	665	—	665
顧客との契約から生じる収益	44,946	9,464	12,892	7,475	74,779	12,696	—	87,475
外部顧客への売上高	44,946	9,464	12,892	7,475	74,779	12,696	—	87,475
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	30	30	934	△964	—
計	44,946	9,464	12,892	7,505	74,809	13,630	△964	87,475
セグメント利益又は損失 (△)	6,390	1,924	1,927	△494	9,747	1,230	△7,685	3,293

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソリューション事業・店舗事業・海外事業(Purple Carrotを除く)・卸事業等を含んでおります。

2. 「調整額」のセグメント利益における主な内容は、固定人件費及び各事業セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。